

【主な行事——入学式、対面式、オリエンテーション、スタディサポート、心電図・聴力検査、担任との面談、スポーツテスト・身体検査、尿検査、遠足、など】

時期のポイント	* 高校生活スタート／新しい環境への適応、中学生から高校生への転換 1年生の最初の指導をしっかりとっておけば3年生までうまくいく 最初の出会いはさわやかなあいさつから  ●何もかもが新しいスタートになる。まずは北高に慣れ、「希望あふれる生徒たちの生活の場＝ホームルーム」を活力があり安心感のある集団にすることを第1目標としたい。当初は特に生徒をほめることを心がけ。 →高校生となった喜びと感激を大切に、高校生としての自覚を高める中でこれからの生活への適応をはかる。希望に燃えている目の輝きを忘れないように。 →部活動加入への積極的な働きかけ。学校行事にも全力投球。 ①個々がやる気を出し、建設的で前向きな集団を目指す。 ②全員がクラスに貢献出来る組織作りを目指す。 ③生徒一人一人とコミュニケーションを目指す。 ●高校入学から中間テストまでが、生徒が向上心をあらわにし、学校の指導を純粋に受け入れる希有な機会になる。この時期の、学校およびクラス担任（副担任）の感化力が非常に重要になる。学校生活に慣れるとともに、規則正しい生活習慣の大切さを理解させる。 →中学生から高校生への意識変革は1年夏休みまでが勝負！ ●職員室への入室の仕方、身だしなみ、挨拶、清掃の取り組み方など生活面での細かな指示を的確に投げかける。 ●クラス全体および一人ひとりの生徒理解は、できるだけ早期に（一般には入学式から2週間以内で概要把握が必要と言われる）行い、面談や声かけでのコミュニケーションが必要である。掃除時間もコミュニケーションの場ととらえたい。学校生活への適応を援助する。まずは全体の2割の掌握から→「何でもないおしゃべり」「雑談」を大切に、日頃から人間関係を築き上げることが以降の最大の勝因となる。その意味で学級日誌も大切にしたい（単なる時間割の記録にしないこと）。リーダーとして期待している生徒には率直にその旨を伝え協力を仰ぐ。この生徒に発言させればクラス全員が集中して聞くとこの影響力のある生徒を見つけておく。中学校から申し送り事項のある生徒には早めの面談を。 ----- 新入生面談のポイント ----- ～「語り手」ではなく「聞き手」にまわり生徒の心情を理解する ①短時間でも早く全員と面談すること。話す内容は事前に考えて準備しておく。 ②高校生活をどう思い、感じているかを把握する。＜高校入学後の印象＞ ③友人関係を把握する。生徒理解のための情報収集。 ④その他必要事項を確認する（例：得意科目・苦手科目、家族関係、健康状態（持病等）、経済状態、趣味・特技など） ★面談時の内容は詳細にメモし、次回面談で生かすこと ●新しい学力観に基づく学習指導や、将来の進路を考えさせる指導が実施されるなど、中学校での教育の変化が大きい。また、「個性主義」が浸透し、保護者も含め、行動パターンの変化、指向の多様化が進んでいる。そのため、教師の加と経験だけでは、生徒の把握が難しい時代が進んでいる。スタディサポートなどの検査や学習時間調査などでの、客観データにもとづく指導が必要になってきている。
進路指導のポイント	●「何でもできる」「何にでもなれる」ような気分になっている生徒には、夢や憧れを高めるような指導が必要になる。入学早々から意欲が乏しく、おとなしく生き方が受け身な生徒は要注意。何か一つ成功体験を積ませて自信を持たせる。「自分が認められている」ことが意欲喚起の契機になる。クラスの一人ひとりを重視する姿勢が、進路指導の基本になる。進路選択は、一人ひとりの生き方の選択である。いくつかの選択肢から選ばせるのが進路指導でなく、選択肢から選択する価値基準の育成など、生き方にかかわるのが進路指導の核になることを肝に銘じたい。→学級通信、保護者通信もこの観点から。 ●進路閲覧室のどこに何があるかをオリエンテーションで学ぶ。教科担当の先生が校内のどこにいるか校舎案内の時に確認。
学習指導のポイント	●「高校の授業はすごい」と最初の授業で生徒に強烈な印象を与え、中学校と高校の違いを実感させる。「北高の生徒になる」ということはどういうことなのかを理解させる。予習の仕方等は学習オリエンテーションでしっかりと理解させる。 ●中学生から高校生の学習習慣に転換させる。自分に適した学習方法を模索させる。→授業を大切に（北高は「授業第一主義」）。課題等の提出期限を厳守するように指導する。 →家庭学習時間（「学年＋2」と言われる）を確保し、授業の予習・復習・定期テスト準備（2週間前から取りかかる）の学習習慣をつけさせる。そのため、意欲喚起のみではなく、予・復習の仕方、ノートを取り方、ファイリングの仕方、辞書のひきかた、などの、具体的「やり方」指導が大切である。土・日に1週間分の予習をまとめてやる習慣を身につけさせたい。 →中学では塾依存度が高く、予習をあまり前提にしない授業展開が多く、家庭での自学自習の習慣がついていない。そのため、中学時の学習習慣を点検し、高校生の基本的な学習のしかたを学ばせる教材として、スタディサポートが使える。予習→授業→復習の「黄金サイクル」を確立したい。このサイクルが今後の学習を支えていく柱であることを理解させる。授業は受けるのではなく活用すべし。「歯磨き学習」の習慣化の重要性を教え込む。 ●生活に慣れるまで生活・学習時間調査が有効。→時間の効果的な使い方を模索させる。家庭で平日3時間、土・日併せて10時間の学習時間を目標としたい。高校の授業は家庭学習が不可欠なことを理解させる。
保護者への対応	◆1年間の定期的な連絡手法を伝え、学校への信頼・期待感を高める。 ◆クラスの運営方針や生活・進路指導について文書で丁寧に示す。 ◆学校通信「あかやま」で毎月学校の様子をお知らせすることを伝える。携帯電話の使用についても周知徹底をはかる。
生徒の内面の動き（例）	『何もかも新しい高校生活のスタート。どうも中学時代と勝手が違う。何かみんな頭が良さそうだな。先生も怖そうだ。専門的っていつのか、なんだか高度。授業のスピードが速くて待ってられない。自宅学習のペースがつかめないうし、何だか身が入らない。部活選びも迷ってしまう。部活やって、勉強にもついていけるんだろうか？』『部活の練習が中学とは比べものにならないくらいキツくて、家に帰るとすぐに寝てしまう』『先生とあまり話したことがないので、緊張してしまう。何を聞かれるのか心配だ』『あこがれの高校生だ。頑張るぞ！』
参 考 に し た い 資 料	『進研プレス高校生活スタート号』（ベネッセ） 『栄冠めざしてJunior』 学力調査結果 スタディサポート結果 「スタディサポート通信」（ベネッセ、以下毎月） 『VIEW21』（ベネッセ） 「スタディサポートまるごと活用BOOK」（ベネッセ） 『蛍雪時代臨時増刊4全国大学学部・学科案内号』（旺文社） 『モノグラフ・高校生 Vol.58 高校生にとっての「時間」』（ベネッセ） 『ホームルーム担任のための進路学習実践ハンドブック1』（実務教育出版）

5 月

〔1 学年〕

【進路委員会，PTA 総会，学級懇談会，中間試験，テスト後の面談，高校総体結団式，総体激励週間，高校総体①など】

時期の
ポイント

*** 学校になじんでくる／高校生としての学習生活スタイルの点検／職業理解**
目標を持たせ、「やる気」を持續させる

5 月

- 少しずつ学校生活になじみ始める。一方，部活で体力的についていけない，予習もままならない，など，生活リズムができてにくい。この 1 ヶ月を振り返り，指導に軌道修正を加える。疲れの出始める時期なので体調面に注意！
→ 4 つの不安に悩む・・・①能力不安 ②意味不安 ③対人不安 ④身体不安
→ 毎日の学校・家庭での学習・部活動を積極的にし（部活動と学習の両立を支援），高校生活の充実をはかる。部活動と学習の両立に関しては，勉強時間が減るという見方ではなく両者の相乗効果というプラス面に目を向けさせる。
→ ゴールデン・ウィーク前後の指導で，初めての定期考査中間テストに向けた動機づけの指導を行う。
「中間テスト」の意味合いを指導し，全力投球させること。連休中の気持ちの緩みに注意させる。
→ 中間テスト後などの面談の機会を生かし，個別指導により個々の状況に即した処方箋を自分で見出させるように導く。スタディサポート結果（担任研修会実施）も利用したい。
- ゴールデン・ウィークの過ごし方・・・規則正しい生活，早めの課題消化，プラスアルファの学習など。「土日と休みが続く＝遊びが続く」からの立て直し。
- なかには，不適応の生徒も出て来はじめる。クラスの中で孤立していないか？
→ 不安を発するのを感じるアンテナ（検査，作文，出欠状況，学年団・保護者とのコミュニケーションなど）の感度を高め，できるだけ初期のうちに対処する。カウンセラー，保健室の利用も。
→ 本音で話せる人間関係の土台作りが重要。指導や学習がスムーズに浸透する。

《面談の内容例》

- ・なぜこの松江北高に進学したのか。
- ・勉強することの意味をどう考えているか。
- ・授業についていけているか。
- ・学校に慣れることができていないか。
- ・友達ができたか。
- ・将来何をしたいのか（夢）



＜留意点＞「閉じられた質問」（YES/NO）と「開かれた質問」（WHAT/WHY）を上手に使い分けること。点数化質問（イメージを 1 ～ 10 の数字で答える）も有効。「新しい枠づけ」法によりポジティブな方向へ。

- 保護者にも学習への理解を図る（PTA 総会後の学級懇談会）。

話すポイント

- ① 入学時の子ども，クラス・学年の概況報告
- ② 担任としてのクラス運営の方針伝達
- ③ 1 年間の大まかな流れの説明と時期に応じた助言
- ④ 保護者の疑問や不安に対する回答
- ⑤ 保護者への協力依頼（「慈母に敗子あり」）

※ PTA 総会での学校側の説明はぜひ聞いてもらうように呼び掛ける。



進路
指導の
ポイント

- 自己理解を促し，進路目標を設定させる。
→ 入学時点で決めていても再度仕切り直させて，「なりたいこと」と「なれること」とのギャップや，なるためのアクションプランなど，より深く，より具体的に考えさせる（入学時に 24 ～ 25% = 1/4 が決めている）。どんな職業があり，どのようにしてその職業に就けるのかを調べさせる。将来の希望を持つことの重要性を理解し，それをはっきりとつかむ努力をさせる。「職業について」フロッピーの 150 の職業解説を利用。
→ 生涯を見通した進路選択（資格や職業→学問領域→学部・学科→文理選択）など，選択までの手順をきちんと教えたいので，その手順を踏ませて選択させる。その際，文理決定の 2 学期末まで，その選択のプロセスを各個人ごとに記録させるのは，手順を踏ませる有効な方法である。
→ 文理選択は受験類型の選択でもあり，文理決定までの担任面談で学習の指針を立てさせ学習行動の動機づけにつなげることが肝心である。
＝「進路選択をすればよし」ではなく，「そのためにどうするか」までリードし，学習につなげるのがクラス担任の重要なスキルである。
- 学習習慣の定着を援助する。勉強時間の工夫（2 時間で疲労が増し能率低下）。15 分程度のちょっとした「すきま時間」を上手に利用することも必要。

学習
指導の
ポイント

- 入学後最初の定期テストは，生徒にとって不安があり緊張感がある。学習計画を立てて取り組む。学年会により試験前の「放課後勉強会」（1 時間程度）が実施される。中間試験中日には基礎学力支援事業で学校開放あり。質問等に利用のこと。
→ いつから（2 週間前から準備）何を，どのレベルまで，どのように準備すれば，高校の定期テストでどんな結果が出るのかを学ばせるテストでもあり，指導的な意義づけを明確にして作問することが非常に大切である。
＝「テストが学習動機」は現実。難易設定（平均 60 点前後）など各教科間のコンセンサスが必要。試験後の反省も必要！（当初の目標設定は妥当なものであったか？）
- 定期テスト後の個別指導が有効である。4 月に指導した「学習のしかた」を，テスト結果をもとに個々の生徒に即して指導する（各教科から試験結果についてのコメントや，テスト直し）。やり方がわかることで，「がんばれ！」の激励に応えることができるようになる。「合格体験記」を効果的に活用すること。
→ 得点や順位ばかりを気にするのではなく，試験までの勉強の過程を反省させ，もう一度予習の方法を確認させる。良い結果を出した生徒の勉強方法を紹介するのも有効。

保護者
への
対応

- ◆ 「生徒を支えていただく」という保護者の役割を伝える。
- ◆ 「保護者三悪」を伝える。 → ① 頭ごなし ② 過度の期待 ③ 他人との比較 ※これをしないように学年集会で協力を依頼する。
- ◆ 高校入学による不安を抱えた生徒・保護者に安心感を与える。

生徒の
内面の
動き
(例)

『まだ何だか浮かっている。高校でもいい友達ができ。部活の練習もあるし，連休課題が多すぎてできそうにない。それに中間テスト。中学のときとは比べものにならないほど，試験問題が難しかった。点をとらせる基礎問題がなくて，本当に身についているかどうかを問う問題が多い。中学の時と同じやり方ではダメらしい。どんな勉強方法がいいんだろうか？ 期末テストでは，絶対に挽回しよう！』『クラスの順位が気になる。』

参考に
したい
資料

「合格体験記」（松江北高） 「スタディナビゲーター」（ベネッセ）
綿貫淳子『できるヤツは勉強法がちがう』（数研出版）
三浦征雄『高校へ行こう！～高校生活不安解消』（数研出版）

【県総体②，総体報告集会，保護者面談，保護者学年集会，校内実力テスト，定期演奏会，中高連絡会，内歯科検診，生徒総会，避難訓練，期末試験など】

時期の ポイント	* 高校生活 3 か月目 / 解放感が広がる中で，悩みや不安が顕在化する生徒も 落ち着いてクラス全体で学習に取り組む雰囲気を作る  ●高校総体も終わり 6 月は「解放感」のようなものが出てくる月。学校生活への「慣れ」から緊張感が薄らいでいる生徒を見逃さない。4～5 月での集団の方向づけができていないか否かで，集団の雰囲気が異なったものになる。総体を一つの節目にして指導。 ●学習のつまづき（予防策必要），部活と勉強との両立（精神的な支援必要），劣等感などの悩みが顕在化してくる時期でもある。学習以外の「生徒の良さ」を把握して，その良さに働きかけることがクラス担任の重要なスキルである。 →学級内や同年代の人たちの考え方や希望を知ることによって学習意欲を高め，積極的な生活態度の確立をはかる。⇒「進路意識」への契機 →生徒の自主性を尊重しながら，小さな変化・小さな成功を目指し行動を起こさせる。適宜ねぎらいの言葉をかけ，努力と成果を認めている気持ちを伝えること。 ●学習は生活の一部であり，活気ある生活が学習の成果にもつながっていく。 ●ショートホームを連絡事項の伝達に終わらせず，担任から人間味あふれる話をする事で，生徒との信頼関係を築いていく→連絡事項などを口頭で伝えず，プリントを黒板に貼ったり，掲示板を利用して生徒が自分でそれを見るように仕向ける。生徒は必要な情報は自分で得なければならないという自主的な行動の大切さに気付く→主体的・自主的な情報収集能力の育成
進路 指導の ポイント	●高校での成績状況が見えてくる時期と，合否分析による進学資料での指導時期と重なる。将来を見通し，「なりたいこと」や「やりたいこと」を実現するための進路選択であることをフォローしておかないと，現在の教科の出来不出来での文理選択に走るおそれがある。 ●今の社会，これからの社会で求められることなどを，朝のホームなどで担任のことばで語ることも，重要な進路指導になる。 ●スタディサポートの所見，中間テスト結果を利用して，勉強の仕方や自分の弱点を考える。 ●教育実習生の経験を活用して，生徒の進路選択の参考にする。
学習 指導の ポイント	●中間テストの反省をし（特に成績の悪かった生徒のフォロー面談），自分なりの学習スタイルを築く 6 月となる。各生徒を軌道に乗せてやることを主眼に。 →「授業を聞くだけで自宅学習しない」中学と，「予習をし，ノートを活用して復習する，演習することで理解し定着できる」高校との違いを知ったうえでの実践を試みつつ，学習習慣を身につけるようリードする。 ★「①理解して→②復習（暗記）して→③使いこなす（応用）」の学習サイクル →自分なりの学習法を身につけるためには，4～5 月でのオールド・フックスな学習のしかた指導がなされていることが前提になる。 ★『量』（＝90～120 分区分切りで集中して学習すること）と『質』（＝効率よく時間を使うこと）の両方を意識して学習する。「集中力」がキーポイントになる。 ●生徒の多くは，学習のしかたを聞いても，いざ実行するとなるとどうしたらいいかわからない。生徒の実態に合わせて，生徒と相談しながら，生徒自身のことばでやり方を語らせる，カテゴリー的な指導で個別指導することが大切である。1 学期の段階でつまづかないような予防策を講じる。教育実習生の体験発表も有効。 →中間テストで高校の要求水準を知った。「どれだけの準備をすれば，どのような結果につながるのか」を体得させることが，効力感を伴う学習 各教科の学習方法（予習・復習）についての再確認を行い，取り組みを徹底させる。 ＝「努力を成果につなげる」自主的学習習慣につながる。 A. 古典の学習習慣定着が課題 B. 数学は授業中心の学習をできるかが鍵 C. 英語は予習中心の学習に変わるかが鍵 ポイント 重要  ●期末テストを 1 学期の学習総決算という意識を持って受験するように指導する。「一夜漬け」の小手先だけの誤った学習方法が定着しないように配慮。具体的目標（得点・順位）を示し動機付けをはかる。 ●高校最初の「校内実力テスト」の意味をしっかりと指導して，それに取り組ませる。校内偏差値の意味も理解させる。 ●英語検定，漢字検定などの受験などを利用して，資格取得の大切さを教える。そのメリットを最初にしっかりと話しておきたい。
保護者 への 対応	◆保護者面談において，中間試験の結果，入学以来の出欠状況，学習時間調査結果，スタディサポート結果をふまえ，問題点と課題を明示する（文理選択を頭に入れて）。生徒の良い点にも必ず言及すること。 (1) 入学時の生徒・クラス・学年の概況報告 (2) 担任としてのクラス運営の年間方針 (3) この 1 年間の大きな流れの説明 (4) 保護者の疑問や不安に対する回答 (5) 保護者への協力依頼
生徒の 内面の 動き (例)	『高校生活にもだいぶ慣れてきた。部活がハードになってきて，眠い。中間テストが終わって，どうしようもなくついていけない科目ができてしまった。これが苦手科目というものなのだろうか？中学と同じ感覚で普通にやってきてしまった。どうも勉強のやる気が出ない。あんな難しいことやって将来役立つのだろうか。やたらに自主性って言われるけど，どうしたらいいのかわからない。』 or 『中学校と同じ感覚で勉強したけど，意外に点が取れたな。』（これが落とし穴になる）『世の中にはいろいろな職業があった自分は何に向いているのだろうか』
参 考 に し たい 資料	『進研プレス職業まるわかり事典』（ベネッセ） かもがわブックレット 『なるにはブックス』『仕事シリーズ』（ペリかん社） 『13 歳のハローワーク』（幻冬舎） 「スタディサポート」結果 野口悠紀雄『超勉強法』（講談社文庫） 『モノグラフ・高校生 Vol.59 高校生の描く 21 世紀像』（ベネッセ） 「進路のヒント 勉強のヒント 2006」（Z 会） 「進学資料」（松江北高進路指導部） 

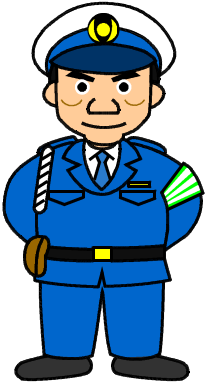
【期末考査、校内球技大会、芸術鑑賞会、進研模試、ボランティア活動、終業式、夏の高校野球、夏季演習(前期)、地区 P T A、オープンキャンパス】

時期のポイント	* 期末テスト前後の指導と、高校生最初の夏休みへの備え 夏休みを「自主的に」「積極的に」過ごさせる ●期末テストでショックを受けても一過性で、夏休みを控えているので何とかするという気持ちになり緊張感がない。夏季休暇について、集団のベクトルを学習に向けつつ、一人ひとりの有意義な夏休みを送らせる。 ●暑さも加わるとどうしてもだらけモードが出てくる。学年集団、クラス集団の雰囲気を上向きなものにし、一人ひとりに具体的な目標と実行計画を立てさせて休暇に入らせないと、確実と言えるほど、生徒は「勉強しない夏」を送る。個性重視の風潮が一斉指導をしにくくし、集団が機能しにくい状況が進んでいると言われる。夏休み前のだらけモードの引き締めめに進研模試を活用し、データ返却後の分析で集団特性を把握して 2 学期以降の指導方針を立てるなど、集団づくりのツールとしても進研模試が有効なものになっている。面談資料の作成。 この時期の悩み ※個々にフォローすること！ ①授業についていけない ②苦手教科がある ③勉強と部活動の両立が難しい ④クラスに馴染めない（友人関係の悩み） ●夏休みは 7 月までの復習を行う時期」と伝え、夏季演習などで学習状況のチェック、課題の進捗確認を行う。
進路指導のポイント	●文理選択の説明・予備調査を行う。文理選択をすることは、受験類型の選択をすることになる。文理選択が、将来の進路を見通した学習（例：英語を重視する職業なら英語を得意にすることが不可欠；経済系へ進みたければ数学に力を入れること）や、入試を視野に入れた学習（例：理系なので数学必須、工学部は理科 2 科目必須）など、学習目的をより明確にするように導く。進路と学習をつなげることで、生徒の学習を内発的なものにできる。→ L H R や夏休みを利用して「△△になるために」「自分はどのような人生を送りたいか」「一生の中で今はどんな時期か」を考えさせる。 ●入学して初めて受ける模試（進研模試）の準備を十分行わせる（過去問の研究）。高校生になってからの学習が身に付いているかどうかを確認することが目的。模試は全国相手の武者修行であることを理解させること（全国で 4 0 万人以上が受験）。解答解説をじっくり読むことも指導したい。 ●オープンキャンパス参加の奨励・・・日程等の提示あり
学習指導のポイント	●夏休みの各人のテーマをあげさせ、そのプライオリティ（優先順位）をつけさせ、必ずやるべきことを夏休みで計画的にやり切るようにさせる。具体的な学習計画表を作成させることが重要（自学自習の習慣の確立）。学習計画の立て方(例：1 0 日刻み)、宿題への取り組み方について事前指導を行う。 f) 綿密な計画であること g) 1 日 1 日達成する喜びを得られるような計画であること h) 無理のない計画であること →高 1 の夏休みの位置づけを生徒に啓発し、なぜ夏休みにやらなければならないのかを納得させる指導が必要である。夏休み中の心得・夏季演習の受け方も指導する。部活のない生徒は学校開放を利用し自主学習する。 →一学期の学習内容を総復習を行い、不得意科目を補強する。 ●高 1 の夏休みの最も重要なポイントは、「自主的な学習習慣」をつけることであり、自主的学習ができた生徒がどれだけできるかが、学年をリードする中核的生徒層（リーダー層）の厚みがどれだけできるかにかかわっていく。 ●高 1 の夏休みは、結果的には不十分なままの生徒が大半になる。しかし、「夏休みの大切さと過ごし方」を伝えた上で失敗することで、冬休みや春休み、高 2 の夏休みでは実行する生徒が出てくる。何も指導せず、学習しない習慣をつけたまま、反省もしない生徒を多くすることが最も困る。＝指導すれば生徒全てが動くわけではない。粘り強さが担任に必要な資質になる。 ●夏季演習を核とした生活リズムの確立 ●広く読書を行い、読解力を身につける。新聞に目を通す習慣も。 ●起床時間、就寝時間、学習時間を毎日記録させ、生活習慣の乱れを防ぎ、生活リズムを保たせる。
保護者への対応	◆地区 P T A で学年状況・クラス状況などを報告する。 ※「入試」というものを理解してもらい、学習をして学力をつけないと希望の上級学校には進学できないことを伝える。そのためにも「将来の目標」を持つことが重要である。ゴールが見えているからがんばれる。
生徒の内面の動き(例)	『期末テストで、中間テストの失敗を何とか取り戻したい。でも、なかなか毎日の積み重ねができなかったのが大変だ。もうすぐ夏休みだ。長期休暇をどう過ごそうか。先輩の話だと、すごい量の宿題が出るそう。そして、夏季演習、部活、…。文理を一応決めたけど、もっとじっくりと考えなくちゃ。』『行きたい学校へ夏休みに行ってみようか』『ちょっとのんびりしたいな…』『全国模試ってやっぱり難しいな。どうやって勉強したらいいんだろう？』
参考にした資料	『文系の学科案内』『理系の学科案内』（学研） 『大学ランキング』（朝日新聞社） 「ホームルーム通信」（ベネッセ） 『Imidas』（集英社） 『知恵蔵』（朝日新聞社） 『16 歳からの東大冒険講座①～③』

■高校生が将来がなりたい職業

※リクルート「高校生の職種イメージに関する調査」2 0 0 0 年

《男子》	1 位 国家公務員	《女子》	1 位 フライトアテンダント
	2 位 地方公務員		2 位 心理カウンセラー
	3 位 ゲームクリエイター		3 位 医師
	4 位 プログラマー		4 位 看護婦（士）
	高校教諭		5 位 保育士
	医師		6 位 作家（小説・絵本・エッセイ等）
7 位 歌手		7 位 秘書	
中学校教諭		アナウンサー・レポーター	



時期の ポイント	* 高校最初の夏休み／自主学習力の育成、自分さがしのための進路学習 8月 ～生活リズムと学習習慣の点検期間～ ●自主的、自律的な学習習慣をつける時期である。4人に1人が夏休み以降に成績を伸ばす。 →夏休みに学習習慣を崩し、そのまま2学期を迎えると、残暑、文化祭、体育祭など、学習しない悪い習慣を固定化することでガタガタになる。生活のリズムを崩させない仕掛け(生活時間調査、部活動、夏季演習等)。日頃しないこと、できないことに挑戦をさせる。 ●自分さがしをさせ、社会認識を形成するための学習をする時期である。 →「勉強しないとどこにも行けない」という、学習を余儀なくさせるような入試状況がなくなり、その意欲が乏しい生徒が年々増加している。一人一人の学習意欲を引き出すしかない。そこで、深刻な不況(リストラ)、急激な社会変化(年功序列→能力主義へ)などの社会についての認識を持たせ、その中で自分はどうするかを考えさせ、「やるしかない」という意識を育てる必要がある。→自分の回りの社会に広く目を向けさせる。 ●「一流のものに触れてみる」 どのような分野でもよいので、『一流』のものに触れる機会を持たせる。 ●時間を見つけて本を読もう。
進路 指導の ポイント	●オープンキャンパス、職場訪問、ボランティア活動などの体験や、進路に関する研究課題作成など、生徒一人一人が進路観を形成する絶好の機会となる。 ●大学全入が、短大や選抜が厳しくない四大で現実のものになっている(河合塾のFランクを参照)。また、将来のために今を我慢して学習することのできない生徒が増えてきている。「いつかやろう」ではいつまでもできない。「こんな仕事をしたい」という目標を見つけさせる。 定員割れ私立大学・・・40.3% 短大・・・51.7% →将来なりたいこと、やりたいこと、そして、自分ができると、できるようになりたいこと、を見出すことが、「我慢して努力を続ける」意義づけの1つになる。 「なりたい自分」を見つける3つのヒント  ①自分自身について考える。 ②興味あることは何でも調べてみよう(「気になったら調べる」が鉄則!)。 ③仕事や社会の情勢について知ろう。 →教科学習のみならず、自分さがしなどの進路学習が大きなウェイトをしめるようになってきている(「自分史」の作成、「ジョハリの窓」など)。進路学習についてもシラバスをつくり、そのなかで長期休暇での進路学習を位置づけることが考えられる。→自分の特性を知りそれをどう将来に活かすか? ●進研模試結果返却にあわせて、偏差値の意味をしっかりと理解学習させておく。次のような点が重要。 (1) 素点だけではなぜいけないのか? (2) 標準偏差の意味(標準偏差が小さいほど平均点近くが高く細くなる) (3) 偏差値の求め方 (4) 偏差値1点の持つ意味  ●個人成績票の見方(得点・偏差値・順位・教科別評価・設問別評価)も指導する(資料は進路指導部より)。また答案返却にあわせて、不正解であった箇所をやり直し弱点補強すること。模試はフォローして初めて実力がつく! ▼問題冊子と解答解説で、次のことを徹底してやらせること。 ①答え合わせをしながら、解答のポイントを押さえる。 ②間違えた問題は教科書まで戻って徹底復習。 ③間違えた問題をとことん解き直す。 ④問題冊子解答解説をファイル。 ⑤答案用紙と一緒にファイル ●FINE SYSTEMの基本的な使い方はマスターしておきたい(進路学習コンテンツ・面談支援・成績・志望校処理システム・成績分析)。
学習 指導の ポイント	●強制力が働かない高1夏休みは、高校生らしい「自主的に学習する習慣をつける」ことが肝心なことである。宿題、補習で強制するほど自主学習力がつかないジレンマとのバランスがむずかしい。計画倒れに終わりがち。 ●進研模試の返却データを分析し、学年、クラス集団の夏休み後の建て直し計画、一人一人の指導方針や実行方法を練っておき、夏休み後の個別指導や斉指導を実行する。 ●広く読書を行い、読解力を身につける→読書習慣が国語力を育てる。読書感想文の提出と絡めながら読書の大切さを説く。
保護者 への 対応	◆夏休みに生活が乱れないように家庭での指導を依頼する。
生徒の 内面の 動き (例)	『高校生初めての夏休みだ。いろんなことができるかなと思っていたけど、宿題と補習の予習で手一杯だ。立てた計画もうまく消化できていない。自分と同じ高校生が甲子園でがんばってるのに自分はダレている。夏休みがどんどん過ぎていく。なんとなくやる気が出ない。どんどん不況になっていく。なんか不安だけど、だからって、勉強すればいいってもんじゃないような気がするし...。社会に出て必要な力と別なことやってるんじゃないかなあ。』 『課題もできていない。どうしよう』
参 考 に し た い 資 料	『蛍雪時代臨時増刊8全国大学内容案内』(旺文社) FINE SYSTEM 『進路学習ノート』(ベネッセ) 大久保孝治『きみたちの今いる場所』(数研出版) 『日本の論点』(文藝春秋) 



【学園祭、学年集会、土曜補習、第2回校内実力テスト、租税教室、市内中学生学校参観、心と性の相談事業など】

時期の ポイント	*夏休み明け／学年，クラス集団の再構築，個々の生徒の状況把握 「高校生」の生活を確立する ～中だるみをいかに防ぐか？～ 9月 ●夏休み・学園祭で崩れた生活リズムを整え、学習中心の生活に戻す ・夏休み、学園祭の開放感を引きずる生徒多し→課題未提出者への指導の徹底、課題テスト結果による学習の見直し - 学習時間調査による生活リズム、第2回校内実力テストへの意識づけ ●1学期の反省をさせ、生活リズムのできていない者、崩れかかっている者に生活設計・学習スタイルの点検をし直させる。生徒の「良さ」を認めながら、改善すべき点をその理由とアドバイスを添えて指摘することが必要。時には教師が「牽引役」として強制的に指導にあたることも必要。→日々の指導の中で生徒との信頼関係を強化していく。 ●学園祭などの教科外学習がさかんに行われる学期になる。学園祭などの行事は連帯感、達成感を生み、集団活性化の要となる。クラスや学年集団を活気あるものにすることが、やがて学習成果にも反映してくる。→クラスの核となるリーダーを育て、生徒自身による運営をサポートするような指導が求められる。 ●発散させることと、学習へと収束させる手綱の取り方がクラス担任のポイントになる。日々の指導の中で生徒との信頼関係を強化していく。 →学習に対する前向きな姿勢を養う。 ●夏休みで各人各様に意識や学習意欲など差異が大きくなっている。生徒一人一人の現状を把握したうえで、意識や学習習慣を点検し、2学期の方向づけをさせることが大切である。夏休み前に比べ変化が見られる生徒には早めの声かけを！ →高い進路目標を持ち、安易に進路変更させない。 ●長期休業後は不登校の兆候や生活の変化が表れやすい →出欠、遅刻、保健室の利用状況、頭髮・服装の乱れに気を配り早めの対応を
進路 指導の ポイント	●今後の文理選択に向けて、それまでのプロセスを確認させる(学年集会)。 →進路希望調査に基づいて、本人の特徴や学力などから適切かどうか不安な生徒、迷っている生徒などを中心に個別の進路相談を行う。 ×生徒の文理選択が決まらないことにイライラ ×先生が考える方向へ文理選択させる ×本人の希望を無視し、成績だけで文理選択させる 文理選択でやってはいけないこと ●夏休みの進路研究の成果（オープンキャンパス、学校説明会、体験学習、職場訪問など）を発表させる、適性検査を行う、など客観的な視点から自分を見つめ、作業させながら進路を考えさせるようにする。積極的に進路閲覧室、図書館、インターネットあるいは校外の施設等を利用して調べさせる。 →「資料提供と調査」の手続き的な進路選択で済ませるだけでは、進路意識が深まらず表層的なものになり、学習などのアクションにつながらない。→「生きる」ということを前向きに考えさせる。進路指導は「生き方」指導。 ●進路情報の入手方法を指導する→上級学校を知る、職業を知る。→インターネットの利用法や「検索」方法（ヤフーやインフォシーク、グーグルなどの主な検索エンジン）や学校要項の取り方は指導しておきたい。 職業選択の鉄則 6 (1)自分の希望や夢をはっきりとさせる。→将来の自分の姿を思い描く。 (2)自分にどんな特性があるのか見極める。→保護者・友達の言葉に耳を傾ける。 (3)希望に合う職業をいろいろ挙げる。→仕事カタログを入念に読む (4)それぞれの職業の情報を集める→働いている人の話を聞く (5)目的に到達するための方法を計画する。→職業に就くための情報を集める。 (6)目指す職業を決め、希望分野を絞り込む→迷った時家族や先生に相談する。 ★職業に上下の差はない。楽なだけの仕事はない。働くことに誇りを持つ。生きる力をつけよう。
学習 指導の ポイント	●生徒一人ひとりのプライオリティを明確にして、やらなければならないことを確実にやり切るように指導する。学園祭などの学校行事や部活などで学習以外のことに時間を割きがちになる時なので、これがポイントになる。 ●高1の2学期に学力差が一層きわだち、2学期までに培った学力がそのまま高校3年間のベースになるなど、学力層の固定化が進行する。 →1学期の成績は、中学校までの貯金も反映する。その貯金も使い果たすことで、2学期に成績が急落する者も出てくる。2学期の成績は、1学期・夏休みの努力を反映する。2学期には、以下のような特徴がある。 授業時間が一番多い学期。できるだけ進度を進めたいので速くなる。 1学期に習ったことは身につけているのを前提に、授業が進む。 →夏休みをはさむことで学習内容が流失してしまい、しかも、学習しない習慣がついて、そのまま低落していく生徒が相当数出てくる ●進研模試(7月)結果、第2回校内実力テスト結果を利用して学習への動機付けを図る。「基準値冊子」の利用法を指導。
保護者 への 対応	◆生徒の変化に注意していただく ◆こまめに生活指導の様子を伝える
生徒の 内面の 動き (例)	『2学期が始まってしまった。あれほど心機一転がんばろうと決意したのに、休み明けの課題テスト、さぼりすぎて最悪だった。相変わらず授業のスピードが速い。文化祭、体育祭シーズンに入って、新たな忙しさが始まった。勉強は、行事が終わってからがんばろう。それにしても、さすがに高校だ。学園祭など生徒だけでどんどん進めていく。でも、一方じゃ、あんなのくだらん、とか言ってしらけてるのもある。自分もなんだかダルくって。進路を考えろって言われても、社会のできごとに全く関心ないし...、勉強の意味もわからないし...。将来の目標や、具体的な進路について考えなければ、決めなければ...と気持ちは焦るが、何をどう考えたらいいのかわからない。まあ、とりあえず頑張るしかないか。』 『先輩の話聞くことができてとても参考になった。頑張るぞ!』
参 考 に し たい 資料	『蛭雪時代臨時増刊8全国大学内容案内号』（旺文社） 『ビギニング「進路選択」がわかる本』（栄美通信） 各大学・専門学校ホームページ k-net 『1年生!』（リクルート） ベネッセハイスクールオンライン（http://www.fine.ne.jp）に文理選択面談の事例あり、参考になる

10月

〔1 学年〕

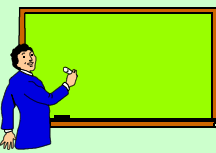
【中間試験，生徒総会，校内ロードレースなど】

時期の ポイント	* 活力旺盛な集団づくりの時期，一方で，学習へと収束させる時期 ～文理選択への土壌作り～ 10月 ●学校行事，部活動，生徒会活動などが活発に行われる。諸活動を通じて，活力ある集団づくりを行う。日々の指導の中で生徒との信頼関係を強化。 ●夏休み後のムードをひきずり，学習への気が抜けがちな時期になる。諸活動での学年，クラス全体の活性化とともに，やらなければならない最低限の学習時間確保など，学習へのドライブをかけ続けることも必要である。この絶妙なバランスをとる指導が，クラス担任のスキルである。→「この先生は自分をちゃんと見てくれている」と信頼感を寄せたとき，生徒個々に合った進路指導の下地ができる。 《参考》生徒は先生と話すことをどう感じているか？（複数回答） よく考えてくれている（58.0%） 私のことを知っているのだろうか？（52.6%） 自分の気持ちを言いつらい（46.5%） よく分かってくれている（36.2%）
進路 指導の ポイント	●中間テストは範囲が長く，しかも難しめの試験になることも多く，諸活動に紛れて試験準備不足になり，ダメージを受ける生徒が多い。このような中で，成績とからめて文理選択を考える傾向がある。そのため，中間テスト後の面談などでは，文理選択の希望に照らしつつ，将来の進路を踏まえた前向きな進路選択になるようにリードする必要がある。 《文理選択に向けて7つの研究ポイント》 (1)進路について研究する目的→進路指導を通じて「生きる」ことを教える。 ★進路を考えることは生き方を考えること ①社会が今後どのように変化していくのか？ ②社会がどのような人材を求めているのか？ ③自分にはどのような力があるのか？ ④自分は何に向いているのか？ ⑤どのような大学・短大・専門学校があるのか？ ⑥進学してからどうなるのか？ (2)自己理解を促し，日常の興味関心から進路の方向を探らせる。 (3)具体的研究方法を提示して（資料，インターネット等）生徒主体の活動を促す。 (4)生徒の視野を広げる。 (5)職業を実感させる（進路講演，職場訪問，看護体験など）。 (6)研究成果を共有させ，この進路観を深化させる。 (7)志望校に結びつける。 文理選択指導のポイント ①可能な限り時間と手間ひまをかけて話をする。 ②早い段階から近くにおいて，選択前から後まで寄り添っていく。 ③選択の入り口は，損得でなく，「何が好きか」「何に興味があるか」 ④将来像まで含めて考えられるような調べ方のヒントを与える。 ⑤自分で十分考え決断する覚悟をつける。 文理選択は「自己責任」で! 
学習 指導の ポイント	●中間テストを節目にして，学年，クラス全体を学習へとドライブをかける。 ●中学までの学力貯金がなくなり，毎日の学習習慣がそのまま成績に反映するようになってくる。その学習習慣は，生徒の状況に落とし込んだ実践可能で習慣化できるものでなければならず，中間テスト後の面談などを通じて，自分なりの学習習慣を身につけるようにリードする。「中だるみ」に陥った生徒には，教師が牽引役として指導にあたる。 〔例〕部活で平日の学習時間がとれない。→予習のみで授業に集中し，土日での復習，計画的な定期テスト準備で復習・定着をはかる。 ●文化祭，体育祭と続き，部活などとの学習の両立が課題の生徒も多い。 →学習時間がとれない中で効果的効率的に学習する方法や，学習時間を生み出す工夫など（すきま時間の活用），個々の状況に沿ったやり方を，担任の助言など交えつつ自分で見出すように導く。 ●中間テストでのダメージを逆手にとって，11月進研模試，12月の期末テストに真剣に向かうことができれば大丈夫である。中間テスト前も重要だが，現実的には中間テスト後の指導が，さらに重要である。（試験前の「前半」と，試験後の「後半」の2つの学習があいまって初めて学力が養成される。学力差はここで大きく分かれる。）
保護者 への 対応	◆文理選択は成績面での一方的な指摘にならないように。本人の希望をあくまでも第一に，そのために現在足りない箇所を埋める努力をしていく，というスタンスで。
生徒の 内面の 動き (例)	『学園祭では，体育祭実行委員会メンバーとして思いっきりがんばって充実したなあ。青春したっていう感じが。だけど，はっと気がつくともう中間テスト目前だ。こうすればテストでばっちり，とわかっているけどやっぱり実行できないなあ。学園祭にのめり込みすぎてしまった。中間は範囲も多いし，間に合いそうもない。このままで大学進学が大丈夫なのか心配になってきた。3年の先輩は，いよいよ追い込みっていう感じで目の色が変わってきたみたいだ。』『文系・理系のどちらに進めばよいか分からない』『数学は苦手だが理系に進みたい』
参 考 に し たい 資料	『学問最前線2006』（河合塾）

11月

〔1 学年〕

【駿台模試(希) , 保護者面談, 進 研模試, 期末試験など】

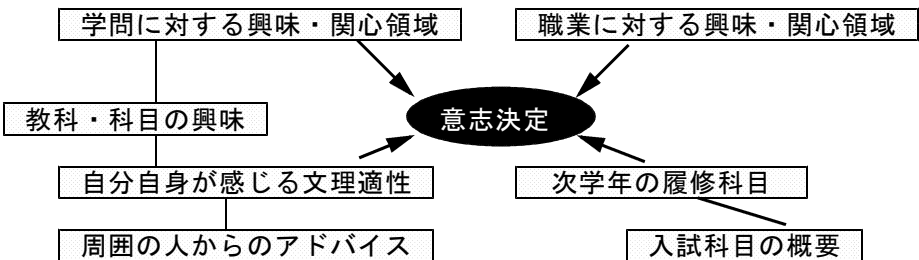
時期のポイント	* 全国模試による学力測定／学力差が固定，拡大していく分岐点 ～高校3年間で成績変動の最も激しい時期～ ●学年集団の学力特性が明確になり，そのままにすると固定化する傾向がある。 ＝進研模試の追跡データでは，11月結果で固定化する傾向がみられる。高校3年間の中で最も成績が変動する時期でもある。一度苦手意識を持つとなかなか克服できなくなる。 ●生徒は何回かのテストを経て，学力について固定化した自己イメージを形成する。そこで，個々に応じた診断と治療によって，客観的なデータを見せながら，個々に働きかけてゆさぶりをかけていくことが，一層重要になる。 ①自己理解を促す指導 ②好奇心を刺激する「しかけ」作り ③職業観を広げる ④他者から学ばせる 《面談のポイント》 ①指導と面談を分けて考える。 ②生徒の内面を協力して理解する。 ③助言は具体的な体験を話してやる。 ④おとなしい生徒を放置しない。	
進路指導のポイント	●上級学校の特色を理解して興味分野を発見する。→進路意識の高まり ●文理選択などの進路選択において，学力が大きなファクターになりがちである。特に，理系で数理が厳しい生徒について，指導に悩む。科目選択の意味についてもしっかり教えたい。大学で学びたいこと，将来やりたいこと・なりたいことなどが明確で，その意志が固いかどうか，などの進路意識の確認，入試や進学後に耐えられるか，現実的な吟味を行う進路相談も必要になってくる。 →文理の選択は自己理解を深める。<u>積極的に調べた人ほど成績アップというデータ有り。</u> →面談で自己理解の深化を支援。 基本的考え方         ①選択するのは自分自身！（友人の進路につきあって決めない） ②狭い視野で選んでしまうのは避けよう！（例：自分はこの学部しかないと思いこまない，教科の得意・不得意だけで決めない，既に進路目標の決まっている人もいろいろな職業・学問について調べてみよう） ③選択する対象（学部学科など）のことをよく知ろう！（イメージだけで判断しないように。就職・資格のみにこだわらないように。新書版の学問紹介の本や各種職業紹介の本）→選択科目の慎重な決定	
学習指導のポイント	●生徒の状況が多様化し，「予習しなさい，〇〇時間しなさい」などの一般的学習法は通用しにくくなる。そこで，一人一人に即した具体的な学習の仕方を見出させるような個別学習アドバイスが，一層必要になってくる。どうしたらいいか生徒なりに考えている。自分の言葉でどうしたらいいか表現させ，自分で解決法を見出させるような，カウンセリング的な指導が必要になってくる（自我のめざめなど，精神的変化が進行中）。→うまくいかない原因ではなく，現在の状況を詳しく確認し分析させる。 ●進研模試・駿台模試について，「準備なしに受験」から「準備して受験」へと転換する。 ＝試験は受験することではなく，準備することで学力が向上する。 →模試の間違った問題をもう一度やってみることで，自分の弱点が明確となる。また，模試受験後に，次の模試までの各自の学習課題を立てる。模試レベルを意識した主体的な学習習慣をつけた生徒層が，いわゆる上位層となって全体をリードする核になっていく（上位層を育成する指導）。 ●「授業→定期テスト」の土台があって，学力テストや進研模試でも成果が出ることを認識させる。入試対策は，授業中心の日常の学習と直結していることを，授業，定期テスト，模試などの位置づけを明確にさせたうえで認識させる指導を，ショートホームルームなどで反復して行う。3年次の推薦入試の話や評定平均値の意味なども話しておきたい。	
保護者への対応	◆面談では保護者との信頼関係強化を最優先に。成績の話だけでなく，よいことも悪いことも含めて，生活・部活・行事への取り組みなどを具体的に話してあげると喜ばれる。	
生徒の内面の動き（例）	『中間テストと学力テストの結果は同じようなものだった。結局，これが実力なんだ。こんなものだ，と思うと，なんだか勉強がつまらなくなってしまうなあ。とりあえず理系にしておいたけど，数学が厳しいので文系にしようかなあ。勉強時間が足りないぞ，って言われればその通りだけど，自分じゃそれなりにやっていた。××さんなんかは，あまり勉強しなくても自分より成績がいい。このままじゃいけないと思うけど，どうしたらいいんだろうか。さっぱりわかんない。』	
参考にした資料	『蛍雪時代臨時増刊11 全国大学受験年鑑』（旺文社） 鍵本聡『理系志望のための高校生活ガイド』（講談社ブルーバックス） 『キミの未来を広げる生き方デザインBOOK』（リクルート）	

時期のポイント	* 暦での1年終了／入学以来の総括と、新年への新たな決意 ～新たな学習目標の設定を～ ● 暦での1年は、1年生にとっては、1～3月までの高校入試準備をはさんだ1年となる。入学時の初心を振り返らせ、一区切りをして新年を迎えさせる月となる。期末テスト結果、進研模試結果返却、進路調査（最終）、保護者懇談など、自分を振りかえる機会が多い。 ● 保護者面談では当事者として考えてもらう資料を準備し、保護者が不安を抱かぬように心がける。 《保護者面談のポイント》 ① 生徒が普段見せない顔を知るよいチャンス。 ② 問い詰めない。 ③ より詳しく具体的に引き出す。 ④ 保護者からも積極的にコミュニケーションをとるよう促す。 ⑤ 困ったことがあれば、一緒に解決していく姿勢を示す。 ● 映画・TV・本など普段触れることのないものをみて興味関心を深める。 ● 文理選択予備登録。 教師 保護者 生徒 進学 
進路指導のポイント	● 進路志望調査（最終）後の面談を通じて、‘なんとなく決めて’一応提出している生徒、‘迷っている’生徒を把握する。そして、生徒なりのレベルで納得し、文理選択をした状態に導く進路相談を行う。 《文理選択4つのステップ》 (1) 自分を見つめ直す (2) 大学について調べてみる (3) 職業について調べてみる (4) 家族や先生と相談してみる ▲ スランプ脱出法アドバイス例 ① 前向きな考え方で臨む ② 自分に自信を持つ ③ 回りに流されずマイペースで ④ 詳しい計画を立てる ⑤ リラックスする習慣をつける ● 生徒を指導するためには、生徒との間に信頼関係がなければならない。生徒は信頼を寄せる教師の言葉なら、厳しくとも耳を傾け、その指導の意味を考え、自らを律するようになる。→生徒は教師をよく見ているので日頃のひとこまひとこまが生徒の信頼につながることを忘れないようにしたい。 
学習指導のポイント	● 期末テスト、進研模試の結果など、学習成果が出てくる。フィードバックを工夫したい。2学年までの3か月の計画の中での、冬休みまで、冬休み、1月進研模試まで、学年末まで、そして、春休みまで、を見通したうえで、個人面談を通じて各生徒に即したアドバイスを行う。（計画的学習） ● 2学期に学力差が開き、苦手へと落ち込む生徒も多い。学習習慣がつかないままに、授業を聞いてもほとんどわからない、というような苦手科目になる。 → 一般に、苦手克服には3か月以上かかるとされる。とにかくひとつ、冬休み中に苦手克服に着手する。2年にまで持ち越すと、苦手さがさらに雪だるま式に大きくなる。この時期はまだ修正がきく。諦めないで頑張らせよう。 → 3学期には行事が多く、授業時間が少ない。新たなことを学ぶ量が、相対的に少ない時期こそ苦手克服の絶好の機会となる。冬休み、春休みの二段構えで取り組めば克服できる。 ＝ 苦手分野の学習は、どうしても後回しになる。最も優先度の高いワンポイントを選び、一点突破主義で「攻めの苦手克服」をさせる。 ● 進研模試の返却データの分析を、7月実施の進研模試データ、校内学力テストデータと比較して行い、全体および個人の課題を明確にする。個人成績票の読み方を引き続き指導する。 → 1月実施の進研模試まで、その後、の指導方針を立てて指導する。 ＝ 経験とカンだけに基づく指導のみでは生徒が動かない傾向が進んでおり、客観データの蓄積と裏付けによる指導が一層必要になってきている。FINE SYSTEMの面談支援データを活用したい。
保護者への対応	◆ 冬休みを利用して、親子のコミュニケーションを密にして、文理選択について考えてもらう。
生徒の内面の動き（例）	『中間テストで失敗したので、期末テストでの挽回をめざしてやった。それなりの結果が出て嬉しかった。でも、進研模試ではガタガタの成績だった。付け焼き刃の勉強になっていたのが暴露されちゃった。冬休み、部活で合宿に参加するけど、勉強もちゃんとやらなきゃ。高校入試までの必死な勉強の反動で、入学後の勉強の波に乗りなくて、それが尾を引いてしまった。来年こそがんばろう。』『課題を終わらせることで精一杯だった』 ★ 年末気分で浮かれているのがこの時期の傾向。 
参考にしたい資料	FINE SYSTEM 進研模試個人成績票

【始業式、休み明け課題テスト、進研模試、ウィンターチャレンジなど】

時期のポイント	* 新年スタート / 3 学年は入試シーズンだけなわ ～入試への理解を深める ● 新年を迎え、気分は前向きになっている。進路目標の方向を定める。 ① 学級に真正面から呼びかける。 ② 生徒を応援する姿勢を基本とする。 ③ 個々に応じて具体的に指示する。 ④ 気になる生徒に臆せず切り込む。 ⑤ 体調管理の徹底を求める（かぜをひかない体力も実力のうち）。 ● 3 学年は入試シーズン（センター試験、私大・短大入試）となり、進学への動機づけに絶好の時期になる。→ 3 年生の後ろ姿に学ばせる。→ 受験を意識し始める。 ● 正月のムード、「入試はまだまだ先」感などから、入試を煽るとかえって冷めていくことになりかねない。 → 発達段階からみれば、いわゆる「自我のめざめ」期になっており、教師の本音や内面などに敏感になっている。即効性はなくとも生徒への「想い」を伝える。 ＝学校の都合や建前からの発信か、生徒を思っている発信かが一層重要になり、教師の感化力や教育力が問われるやっかいな面が強まっていく。 ● 「文理選択」の仮登録、本登録に向けて、担任間での進学（生活指導は新入生時から）などの考え方、姿勢について、共通理解を持って足並みをそろえておかないと、2 学年で新クラス編成をした時に各クラスの生徒が混在するのでクラス運営をしにくくなる → 情報交換と共通理解（重要）。 ● 「センター試験」を意識させる（大半が 1・2 年生の範囲から出題されることを周知徹底させる。新聞発表等を利用して問題に挑戦してみるように刺激する）。※きちんとやっていたら 60% 取れるのがセンター試験 ● 「ウィンターチャレンジ」に参加することにより、体力アップ、早起きを体験する。前人未踏の総体 5 連覇へ向けて、心を一つにして盛り上がる体制作り。
進路指導のポイント	● 新聞の年頭特集などで、地球規模の問題や近未来予測など、社会的視野を拡大する契機がある。進学へのベクトルを明確にする一方で、文系・理系それぞれの問題意識を深化させることも必要になる。 ● 精神的な発達が晩成型の生徒の中には文理調査で決めたものの、表面的に選択し、精神的に成長する中で迷い出す者も出てくる。クラス編成上許容できる時期まで個別の進路相談などでフォローする。 ● 「知・徳・体」を語り、受験科目以外の教科学習の大切さを徹底して教え込む。 ● 学習計画を立てそれを実践にうつすことは、3 年生になるまでに修得すべき「自己管理能力」
学習指導のポイント	● 3 年生がこれからどんなスケジュールで受験し進学していくのかを語ることで、入試のしくみを教える（分離分割入試、二段階選抜、後期の廃止、医学部の理科 3 科目、推薦入試、私大入試、センター利用私大＜約 8 割が実施＞、A0 入試など）。1～3 月が受験シーズンであり、高 2 は、高 1 の 1 月～12 月、高 3 も高 2 の 1 月～12 月と考え、入試暦では事実上高 2 がスタートしている（2 年生 0 学期）、という自覚を持たせる。 → 小さなこと・できることから一つ一つ徹底させていく。 高校入試とは違う大学入試の特徴 (1) 学区制がないので全国どこでも自由に受験可能 (2) 入試科目が大学によって違う (3) 入試日が重ならない限り何校でも受験可能 (4) 同じ大学でも入試日が重ならない限り学部を変えて複数回受験可能 (5) 同じ大学の同じ学部・学科でも複数の入試方法がある（例：立命館大の A/B/M 方式）。 ● 入試への意識づけのツールとして進研模試を利用する。その際、11 月の進研模試の反省のうえで、1 月の進研模試の試験準備をさせる指導を行う。 ＝「入試は準備して受験、模試も当然、準備して受験する」習慣づけ
保護者への対応	◆ 学年末考査に向けて、進級の不安な生徒には進級規定を十分説明し、奮起を促す。 ◆ 文理選択に関して迷いのある生徒にはしっかりと情報提供を行う。
生徒の内面の動き（例）	『3 学期が始まった。新年で心機一転といきたいけど、なんだか正月気分が抜けないなあ。あと丸 2 年で受験って言われるけど、そんなに受験、受験って言われてもなあ。新聞じゃ、入試がやさしくなって、受験生集めに苦労している大学もあるって書いてあったし、先輩もセンターだめだったら、私大が入りやすくなっているから、どうにかなるって言っていたけど... なんか、緊張感ないなあ、担任の先生は大げさに言ってあせらせようとしているみたいだけど、実際はどうなんだろう？』『3 年生はセンター試験に向けて頑張っているけど自分はまだまだ先のことのような気がする』

【進路決定までの要素】



【ウィンターチャレンジ、駿台模試(希)、ワックス掛け、学年末考査など】

2 月



時期のポイント	* 担任はあわただしく、生徒にはゆとり、3 年生は受験まただ中 ～新学年の好スタートへ向けた仕掛け ～2 年生 0 学期の意識を～ ●欠席が増える 2 月（全体的に目的意識が低下している証拠）。「何か目的があるとき、あるいはその目的に向かって努力しているときは自然と健康管理に気を配るもの」という事前指導を徹底したい。 ●入学時の初心に立ち返らせ、一つ一つを徹底させる（時に厳しく時には優しく）。 ●小の月で 28 日の間に、祝日、行事が入り、学年末試験もあり、授業時数が確保しにくい。 ●担任は卒業式準備や高校入試事務準備などであわただしく、生徒へのマインドシェアが相対的に低くなる。 《留意事項》 ①小さな兆候を見落とさない。 ②基本に戻り徹底を図る。 ③家庭環境の変化に注意。 ●生徒にとっては、授業進度が進まない分、ゆとり感が出てくる。 ●3 年生は受験まただ中。先輩たちの私大入試やセンター試験結果などの状況を語って、入試の緊張感を伝え 2 年後をシミュレーションさせることで、だれがちな状況を締める。2～3 月にだれさせてしまえば、第 2 学年での中がルミが決定的になる。同じクラスでの生活終了が近くなる。ロングホームルームなどの場などを使って 1 年間の思い出など反芻しつつ、第 2 学年への期待感を醸成する。次の点を指導。 (1) その日取り組む勉強に優先順位をつける。（朝のうちに） (2) 学習日課表を作る。（計画的に）←生活時間調査 (3) 休み時間など「すきま時間」を有効に使う。（15 分あれば結構できる） (4) 授業は真剣勝負。（1 時間を大切に。北高は「授業第一主義」） (5) 疑問点は先生に質問して解決する。（その日のうちに片づける） ●学校評価（教員、生徒、保護者）の結果をしっかりと分析し、次年度への改善点などを学年全体で話し合う。 (1) 従来通りと踏襲されてきた指導方法や指導内容の問題点が見つかり改善を促す契機となる。 (2) 他学年と比較することで、保護者・生徒の意識の違いが明確になる。 (3) 指導力不足の項目がはっきりすることで、次年度の重点目標とすることができる。
進路指導のポイント	●私大入試やセンター試験結果などの状況を伝えて、進学についての自覚を持たせる。入試のしくみや、どうすることが合格する力をつけることになるのかを教えるのは、クラス担任の 1 つの仕事である。 ＝将来の進路実現は、いくつかの関門を越えていくことで実現することを自覚させ、入試はそのための最初の大きな関門になる。 ☆学校選びをさせる 4 つのポイントは、①今の興味関心から考える。 ②なりたい職業から考える。 ③学びたい学問から考える。 ④行きたい大学・学校から考える。 大学全入時代を迎え、大学の二極化が進む現在、どの大学を選ぶかは進路実現のために以前にも増して重要な意味を持つ。 ●就職・公務員志望の生徒には、今後の準備について指導する。 ●専門学校を考えている生徒には、情報収集のための手だてを指導する。（学校案内、学校訪問、学校説明会、ホームページ等）
学習指導のポイント	●学年末テストを節目にして学習させる。定期テストと学力向上の関連を理論的に整理して、定期テスト準備の納得度を高める指導が肝心である。クラス全体として頑張る雰囲気作り。→「全員で進級しよう！」進級の危ない生徒には面談、声かけ、保護者の指導も。 →日々の授業を中心とした学習が、そのまま入試対策になっている。 →定期テストのレベルで授業で学習したことを反復整理し、さらに知識の運用力（応用力）をつければ、そのままセンター試験対策学習になる。（センター試験が入試において大きなウェイトを占めることは説明済み、が前提） ●試験結果から高校での学習がどのくらい身に付いているかを確認させる→学習の仕切り直しへ（「努力できること」も 1 つの才能） 進研模試の返却データを分析し、11 月進研模試と同じような傾向が出れば確実に学年、個人の長所や課題点と断定できる。個人成績票の読み方をさらに指導する。 →この分析をもとに、3 月～春休みの指導方針を立て、学年末テスト終了後、進研模試の客観データと校内データを活用した指導を行う。 ●志望校の「赤本」（過去問、傾向分析、プロフィール、要項、倍率、配点）、入試要項、学校案内を紹介する。（進路指導室）
保護者への対応	◆文理選択の最終確認 ◆進級規定に関して十分な理解を、進級が危ぶまれる生徒には、本人、保護者に理解を求め、学年末試験への奮起を促す。
生徒の内面の動き（例）	『1 年生のまとめの時期になった。先生方は忙しそうで、毎日いろんな会議をやっているようだ。建国記念の日などで休みも多い。授業進度であせっている教科もあって、変にプリント学習や宿題が増えてきたなあ。いよいよ 2 年になるって気分になってきた。受験のこと、なんとなく今まで以上には気になってはきた。だけど、授業がない日が多い分、なんだかのんびりしちゃうなあ。学年末テスト近づいてるけど、なんだか気持ちが入らない…。頑張ろうとは思うんだけど。みんなはどうなんだろう？』『来年のクラス編成が気になるなあ。あの子と一緒にクラスになれるかなあ？』
参考にした資料	FINE SYSTEM 「明確な目標を持たせる面談」の事例が、ベネッセハイスクールオンライン (http://www.fine.ne.jp) にあり 進研模試個人成績票 各大学、短大、専門学校要項

時期の ポイント	* 第 2 学年への備え / 学年末後から始業式までの 1 か月 = 夏休み以上に重要 ～ 2 年生へ向けて心構え ● 春休みは，実質的には，学年末テスト終了直後から始まる。→ 次年度への準備 ＝自主的に学習できる時間は，夏休みよりも多く与えられている（宿題，補習がない，または少ない。卒業式，高校入試などで授業日が少ない）。 ● 高 2 のスタートに向け，力をためる時期になる。高 2 始業式までの 30 日余に，何を仕込ませて高 2 を迎えさせるかがポイントになる。 ＝自主的な学習をさせ，自己学習力をつけさせるのが肝心で，宿題・補習での学校依存型の受け身型・被強制型の指導には配慮が必要である。 → 弱点克服，あるいは，理解を深める，などの各自のテーマを設定させようでの自主学習の時間供与を行う。自主性や自己学習力をつけることが，いわゆる「生きる力」をつけることにつながる。 → 学習習慣や意識，学力の面からの自己点検，高 2 スタート時の生徒把握，動機づけが必要になる。次の諸点を強く指導したい。 (1) 今までの学習法を改め学習時間を増やせ！（変わる勇気を！） (2) 予習→授業→復習の「黄金サイクル」を死守せよ！ (3) 定期テストの準備は 2 週間前から始めよ！（1 週間前の居残り学習を有効に活用） (4) 自分は何をしたいかを模索し，学習目的を明らかにせよ！ (5) 視野を広げ，自分さがしをせよ！ (6) 模試対策は「黄金サイクル」と定期テストがベース！ (7) 「忙しい」を逃げの理由にして日々の学習を怠るな！ → 本年度の反省と次年度への抱負・目標を考えさせる。★広い視野に立たせ，自分のあり方・生き方を考えさせる反省文を書かせることは生徒の「生きる力」を引き出す上で重要。春休みを利用して憧れの学校訪問を計画させるのも有効。 ① 「慣れ」からの脱却 ② 「春休み」を視野に入れた指導 ③ 潜在的意欲の喚起 ● 1 週間の「学問探究講座」に参加することで，日頃味わえない勉強の魅力や楽しさを体験する。 ● 次年度への引き継ぎ資料・指導要録の作成 (1) 家庭環境 (2) 保護者の対応・懇談での様子、考え (3) 生徒自身の様子、考え ● 早進度クラスから普通進度へ移る生徒、逆に普通進度から早進度へ上がる生徒へのフォローをしっかりと行う。 ● 皆勤賞の生徒を高く評価し、今後への期待を語る。 ● お世話になった先生方にお礼を述べる（特に退任される先生）
進路 指導の ポイント	● 3 年生の入試結果など，生々しい入試情報をクラスの実情に即して加工して伝え，進学への意識づけを行う。その際，入試の厳しさを伝えることはあっても，それ以上に，<u>進学後に何を学ぶのか，何ができるようになるために進学するのが大切である</u>，というような発信を行うのが肝心である。文理別に分かれるので，あらためて，その選択理由を問い直させる。「自我のめざめ」期での特有な「なぜ」を問う時期であることと，大学進学が必ずしも将来を保障しないことが明確になっている時代状況と合わせ，学ぶ意味を自分なりに問わせることが，以前にも増して必要になっている。 → 進路指導室の廊下の合格者掲示板に関心を向けさせる。先輩の進路結果に注目させる。 目標を実現するための 3 つのステップ  ① 自分の興味の方向性を確認。 ② その興味が学問や将来の仕事に結びつけるにはどうしたらよいのか，情報収集を行い検討。目標が定まることで「なりたい自分」を明確にする。 ③ 「なりたい自分」と「今の自分」のギャップを認識し，目標達成に向けて努力する。 ● 現状から目標を決めようとする（下→上）生徒は必ず失敗する。やはり目標から現状を改善する精神（上→下）でないと成功はおぼつかない。ゴールが見えているからがんばれる。
学習 指導の ポイント	● 学年末テストを学年の一つの仕上げとして，クラス全体として頑張る雰囲気作りに努める。 ● 進研模試結果データ・駿台模試などの客観データを利用して，集団および個々人の学習の課題を明確にして学習への動機づけを行う。 → かと経験からの指導のみでは，生徒が動かないと言われる。<u>客観データをもとに，かと経験を生かして，一人ひとりの生徒に即した処方箋を出さないと生徒を動かさない</u>，手間のかかる教育が必要な，やっかいな状況になってきている。 ● 学年主任のリターンプッシュのもと，学年一致して指導にあたる。 → 教師にとって気ぜわしい時期なので，学年，担任の意思に左右される。 ● 一年次の学習を総括し，二年次に向けて生徒が目標を明確にして学習に取り組めるように，各教科で「コレだけは」という課題を提示してもらう。 → 春休みの学習の重要性（自主的な学習時間が長く取れる学力充電の時期）→ 二年次の学習への課題を明確にして春休みを迎える。
保護者 への 対応	◆ 進路変更を余儀なくされた生徒には，本人の将来をよく考えてふさわしい進路の相談に誠心誠意のる。
生徒の 内面の 動き (例)	『なんとなくさびしい季節。憧れだった先輩が卒業し，自分は高 2 になる。去年の今ごろは，高校入試で合格して希望や不安を持っていたなあ。これからしばらく試験はないし，春休みになるし，解放感がある。自分の目標に向かってしっかりしなくっちゃあ。』 『春休みを利用して憧れの大学へ行ってみよう』 『2 年生では誰の同じクラスかなあ？』
参 考 に し たい 資料	FINE SYSTEM 看護医療『合格手帳』2002 年版（実務教育出版） 駿台模試個人票 

生徒がやる気になったきっかけの例



- ・ 将来やりたいことが見つかった！
- ・ 志望校が決まった！
- ・ 先輩たちの話に勇気づけられた！
- ・ 悩みについて先生がアドバイスをくれた！
- ・ 進級して気分が引き締まった！



- ・ 先生に褒められた
- ・ 友達のがんばりに刺激された
- ・ テストの成績が良かった
- ・ 授業が分かるようになった
- ・ 先生から「まだまだ伸びる」と励まされた